

環境報告書

2008 年度

エレクトロニクスの未来を考える技術の…



<http://www.kdwan.co.jp>

～ 目次 ～

1. ごあいさつ
2. 会社概要
3. 経営理念
4. 日本内部統制大賞
5. 環境マネジメントシステム
 - 5 - 1 環境方針
 - 5 - 2 環境管理組織体制
6. 環境活動報告
 - 6 - 1 事業活動による環境負荷
 - 6 - 2 環境活動報告
 - 電力使用量削減
 - 車両燃料の削減
 - 環境配慮設計
7. 社会貢献活動
 - 7 - 1 交通安全指導
 - 7 - 2 協立秋祭り
 - 7 - 3 警察協力

1.ごあいさつ

協立電機は、昭和 34 年の設立以来約 50 年、FA(ファクトリーオートメーション)技術と IT 技術の融合分野であるインテリジェント FA システム市場を対象とした開発型ビジネスを通して豊かな未来社会に貢献し、株主・顧客・社員及びその家族・そして関連する全ての会社や人々と将来の希望を共有し心豊かで風通しのよい企業風土を形成することを経営理念に掲げ今日に至っております。

斯かる経営理念のもと、協立電機のメインビジネスである顧客設備のシステム開発・エンジニアリング・製造を行うに当たっても、常に環境に配慮し、社会の期待にこたえるとともに、大切な地球環境との調和を考えた活動を推進することとしております。

この様に協立電機は、最先端の技術力とこれを支える心豊かで揺らぐことの無い企業倫理を企業風土として、顧客の要望に応えることにより社会に貢献、その際常に環境配慮を忘れることなく、日々努力しております。

また、地球環境への負荷という環境問題にとどまらず協立電機は、地域社会・コミュニティの環境問題にも積極的に取り組み、評価もいただいております。

皆様には、協立電機の環境管理活動への取り組みをご理解いただき、あわせてご助言・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2009 年 3 月



協立電機株式会社

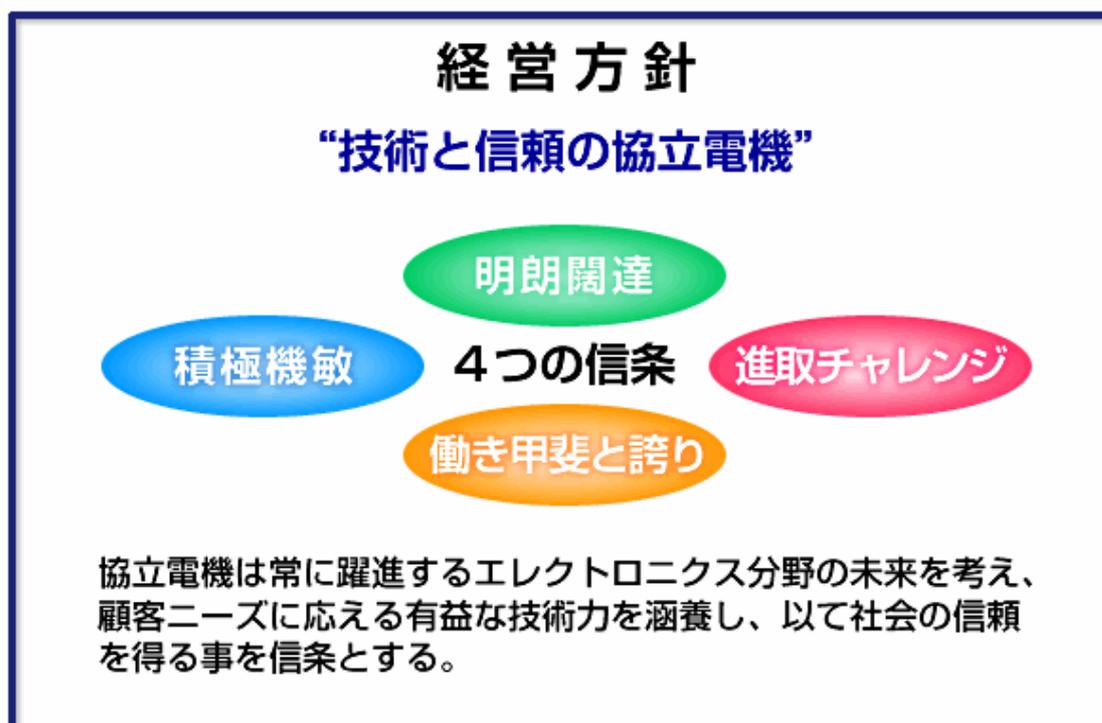
取締役社長 西 雅 寛

2.会社概要

社名	協立電機株式会社
設立	1959年2月
所在地	静岡県静岡市駿河区中田本町 61 - 1
事業内容	インテリジェント FA システム IT システム インテグレーション リナックス サーバシステム・ソリューションパッケージ ネットワーク型生産管理システム オープン制御システム 環境計測システム ラプラトリーオートメーションシステム 電磁波障害システム 半導体基板検査装置 ロボットシステム 土木シールド・推進工法掘進管理システム 電気設備自動制御工事、計装設備工事 開発・設計・製造・販売・メンテナンスサービス
資本金	1,441 百万円
従業員	479 名 (連結) 301 名 (単体)
売上高	27,932 百万円 (連結) 16,007 百万円 (単体)

(2008年6月期決算報告)

3.経営理念



4.日本内部統制大賞

協立電機株式会社は、日本内部統制大賞（Integrity Award）審議会が行なっている日本内部統制大賞（Integrity Award）2008において、優秀賞を受賞しました。

「日本内部統制大賞（Integrity Award）」は、内部統制システムが効率的な企業経営を行うために重要であることを示していくとともに、コンプライアンス（倫理法令遵守）重視の誠実かつ透明性の高い経営が中長期的に見て市場で高い競争力を持つことを評価しつつ、こうした意識の高い企業を社会的に応援することを目的として制定されたものです。

当社の優秀賞の受賞理由は、次のとおりです：

企業に対する社会の期待に応えるため、経営判断の価値基準に、短期的利益よりも長期的存続・発展を掲げている。経営理念にある「協立グループはFA技術とIT技術の融合分野であるインテリジェントFAシステム市場を対象に開発型ビジネスを通して豊かな未来社会に貢献し、株主・顧客・社員及びその家族・そして関連する全ての会社や人々と将来の希望を共有し心豊かで風通しよい企業風土を形成する」という価値観に基づき、環境重視の姿勢を前面に出し、2003年にISO14001の認証を取得した後、関連会社でも順次、その認証取得を進めている。コンプライアンス重視の姿勢を徹底すべく、人事評価に反映している。

以上の様に、協立電機株式会社は、日本内部統制大賞の優秀賞を受賞しましたが、協立電機株式会社及び協立グループは今後もますます企業倫理、コンプライアンス、環境問題、文化・地域への貢献を含め、企業の社会的責任（CSR）を強く認識し真剣に企業活動に取り組んで参ります。



5.環境マネジメントシステム

5 - 1【環境方針】

環境方針

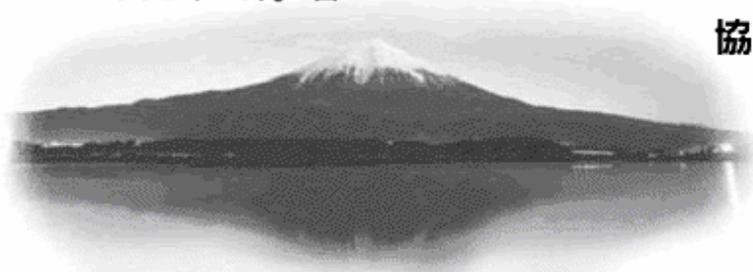
理念

協立電機株式会社(本部)、協立機械株式会社(本社)、アプレスト株式会社(本社)、協和電工株式会社(本社)のグループ4社は、P A、F Aほか各種の制御・管理システムの開発・設計とシステムを構成する機器・機械の販売および、これらの設置工事をおこなうことで、社会の期待にこたえとともに、大切な地球環境との調和を考えた活動を推進します。

方針

1. ISO14001環境マネジメントシステムに基づいた環境保全活動を推進します。
2. 事業活動にあたっては、環境関連の法規制および各社が制定した約束事項を遵守して環境保全に努めます。
3. 環境マネジメントシステムに従い、環境目標を設定し実施するとともに、技術的・経済的に可能な範囲で、環境負荷の低減および環境汚染の予防に努め、継続的改善に取り組みます。
 - (1)地球温暖化防止のために省エネルギー化の推進に努めます。
 - (2)資源枯渇防止のために省資源化の推進に努めます。
 - (3)環境負荷低減につながる商品の提供に努めます。
4. 社員および協力会社の方々など関係者に対し、環境教育や広報活動などを実施し、環境方針の理解と環境保全に関する意識の向上を図ります。
5. この環境方針は社外に対して開示します。

2005年10月1日

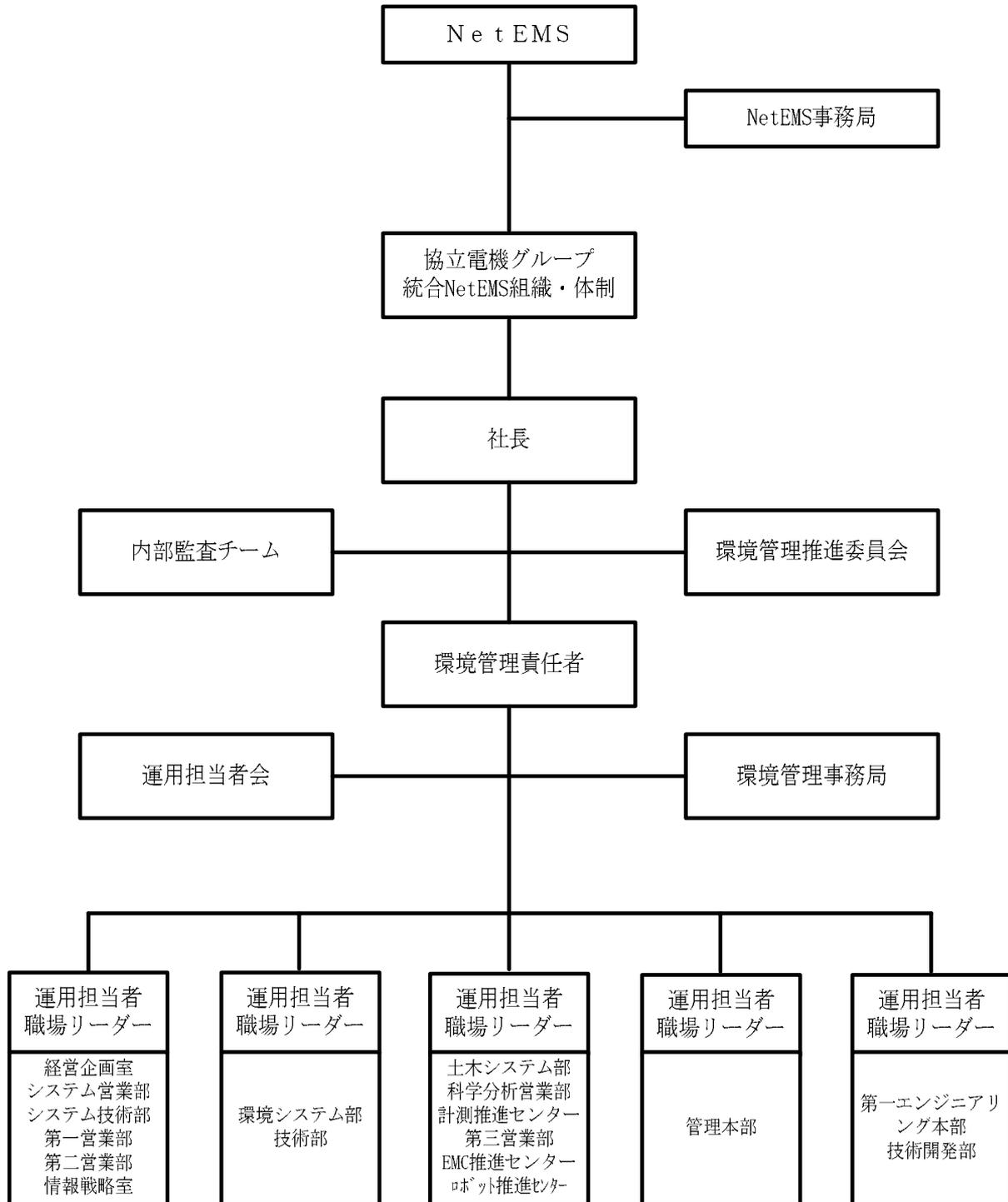


協立電機 株式会社

代表取締役社長
西 雅寛

協立電機は環境活動に真摯に取り組み、その1つに、グループ企業にも環境活動の重要性を認識させ、ISO14001の取得を勧め指導してきました。グループ企業3社それぞれが取得致しましたが、現在はグループで統括したISO14001を取得し、協立電機が先導役を果たしています。

5 - 2 【環境管理組織体制】



6.環境活動報告

6 - 1【事業活動による環境負荷 2008】

INPUT		
	全社	ISO14001 の対象範囲内
電気	645MWH	373MWH
ガソリン・軽油	173KL	100KL
上水	3,316 m ³	1,917 m ³
OA 用紙	1613 箱	1,168 箱(＊)
プリンターカートリッジ	351 個	203 個
定形・定形外封筒	89,954 枚	52,000 枚

(＊) 本数値には、ISO14001 対象範囲外の CE 本部 (44 名) を含む



OUTPUT		
	全社	ISO14001 の対象範囲内
ダンボール	7,508Kg	4,340Kg
コピー用紙	640Kg	370Kg
パンフレット	18,752Kg	10,840Kg
トナーカートリッジ	922 個	533 個
廃プラスチック	128 m ³	74 m ³
紙くず	21,243Kg	12,280Kg
可燃ごみ	5,447 個	3,149 個
不燃ごみ	1,540Kg	890Kg

【INPUT・OUTPUT・・・全社人数：301 名、ISO 対象範囲内人数：174 名】

インプット・アウトプットの数値は、事業活動の特性より、略人数に比例しており、インプット・アウトプット数値の全社には、ISO14001 対象範囲に含まれていない営業所等もありますが、ISO14001 環境負荷各項目の対象範囲内の数値を基に、推計しております。

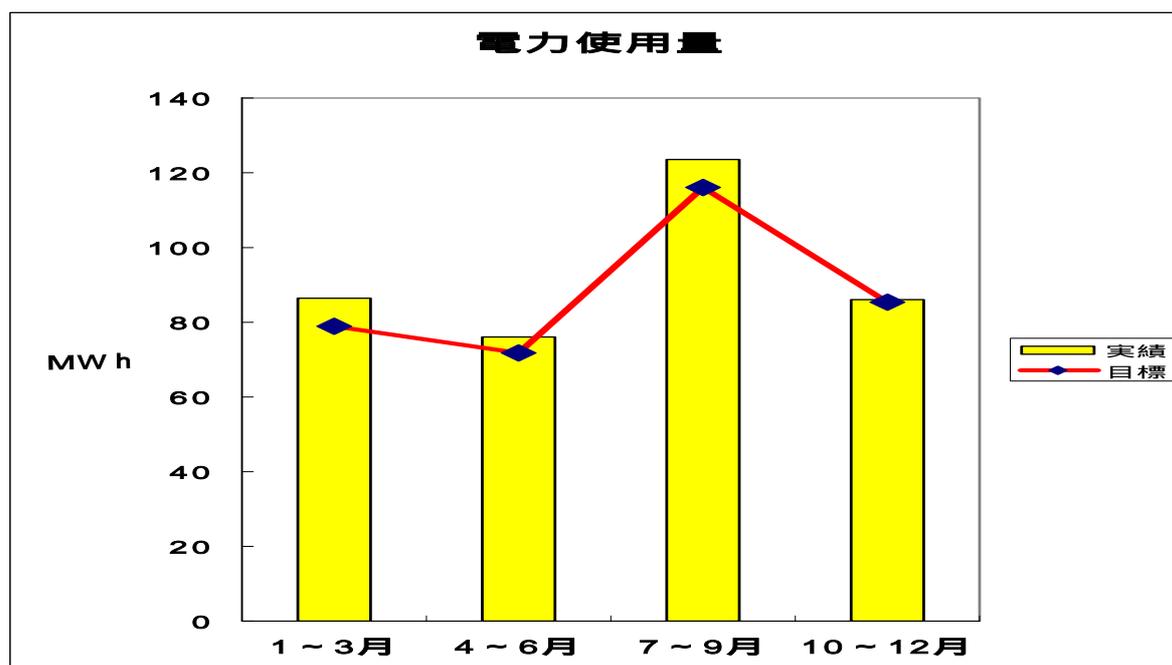
6 - 2 【環境活動報告】

2008年7月7日から9日まで北海道洞爺湖にて、福田総理大臣の議長のもとに北海道洞爺湖サミットが開催されました。

このサミットの重要なテーマとして環境・気候変動問題が取り上げられ、G8は長期目標として2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量の少なくとも50%削減を達成する目標を、UNFCCCのすべての締約国と共有し、採択することを求めることで合意し、また中期目標としては、全ての先進国間で排出量の絶対的削減を達成するために、野心的な中期の国別総量目標を実施することで合意しました。協立電機も、斯かる社会状況に鑑み、社員が一丸となって環境活動に取り組んでいます。

協立電機はエンジニアリングに特徴をもった技術に特化した製品を提供しており、生産工程で特に有害物質を排出することがありません。そのため、日常業務における環境負荷減少を目標にし、電力使用量削減 車両燃料の削減 に取り組んでいます。また、エンジニアリングを主体とした製品において、環境負荷低減を考えて 環境配慮設計 を重要視し、お客様に、環境に配慮した製品設計を提案し、採用頂いています。

6 - 2 - 《電力使用量削減》



協立電機では、電力使用量前年度比1%削減を目標としています。

エアコンの省エネ運転(温度設定、時間短縮)、定期的なエアコンのフィルター清掃、パソコンの長時間無操作時のモニター電源 OFF 設定、昼休みや終業時のパソコン・フロアの照明・プリンター・コピー機・エアコンの電源 OFF 等、社員一人一人が意識的に行い、各フロア毎にチェックを行っています。

上記の様な全社をあげての努力にもかかわらず、残念ながら好調な事業活動と夏の異常気象のために目標に達することはできませんでした。開発センターではこの状況から脱却する為に、対応可能な施策を検討し、開発センター2Fの現状調査と改善案の検討を進めてきました。そして次のような対策をとりました。

～ 開発センター2F、蛍光灯のキャノピースイッチ取り付け～

開発センター2階、蛍光灯のキャノピースイッチ取り付け工事を行いました。

本工事は電力消費量削減について第三 SI 技術部で何かできることはないか、という観点で開発センター2Fの現状調査と改善案の検討を進めてきました。提案にはパソコンやバッテリーの待機電力をカットする(未使用時にコンセントを抜く)、給湯器の消費電力を抑えるなどという意見も出ましたが、今回は既存の照明器具にキャノピースイッチを取り付け単独回線にして、使用していない照明をこまめに切って節電するのが一番効率がよいだろうという結論に至り今回の施工となりました。



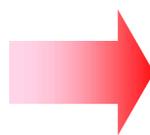
(キャノピースイッチ)

工事自体は事前の下準備と工事手順を明確にしておいたおかげで滞りなく進みました。何より第三 SI 技術部部員が一丸となって作業を行ったことと、第一エンジニアリング本部、および協立電機グループ各社の協力により、当初作業4時間と見ていたところ予定よりも1時間早く終わらせることができました。

この工事に掛かった開発センター2F照明50箇所の費用は約13,000円(キャノピースイッチ、圧着端子、ケーブル代)でした。取り付け工事は楽とはいえませんが、取り付けてしまえば後は「ラクして節電」することができます。全照明点灯時と必要箇所のみ点灯した時とで2時間分の電気消費量を計算し、比較したところ年間で1,488KWhの節約に繋がることがわかりました。このことから開発センターの電力消費量削減に貢献してくれるものと期待しています。また何より、社員個々の電力消費量削減に対する啓発に繋がると思います。



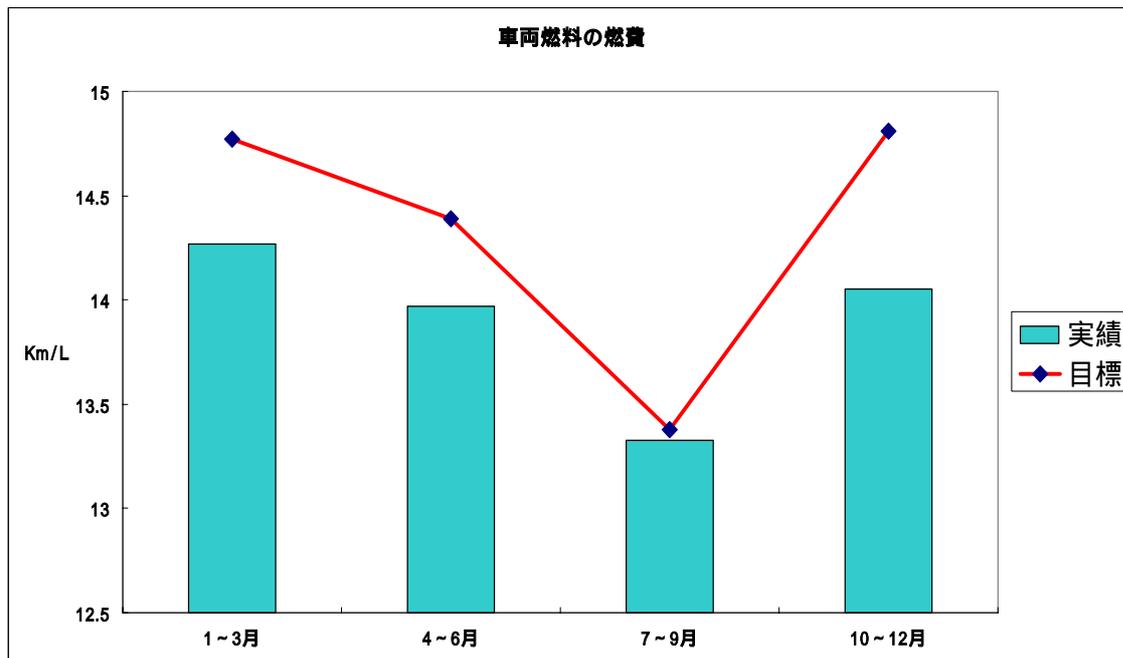
(取り付け中)



(取り付け完了)

【担当:第一エンジニアリング本部 第三 SI 技術部】

6 - 2 - 《車両燃料の削減》



社員一人一人の意識があれば、車両燃料の削減も実現可能との観点より協立電機では、燃費の目標を 14.32Km/L としています。

燃費をよくするには、社員一人一人の環境を意識した運転が大切になりますが、年間を通して、13.91Km/L という、目標未達の残念な結果となりました。特に夏の暑い時期(7~9月)を見ると、13.33Km/L と目標を大きく下回る結果でした。社員の環境配慮意識を更に向上させるとともに、どのような具体的な取組をしていけばよいかが、今後の課題となります。

6 - 2 - 《環境配慮設計》

協立電機のシステム設計部門では、ISO14001への取り組みの目標として「環境配慮設計」の推進を取り上げて活動しており、「環境配慮レビューシート」を作成しております。

インテリジェントFAシステムの仕様決定、ハードウェアの選定、ソフトウェア設計の際に、お客様のシステム条件に応じた環境配慮設計項目をシートにまとめ、お客様へ最適なシステム提案・協議を行い、環境への配慮を意識し、積極的な提案をおこなうことにより、より効率の良いシステムの構築に努め、自社のみならず、顧客設備を含めた環境への貢献を図ることを目的としています。

一般的にエンジニアリング業務は環境に貢献していると考えられますが、環境配慮設計をより意識することでシステムエンジニアのモチベーションが向上し積極的な提案を行うようになりました。今後の課題として更なる環境配慮設計の環境貢献度の向上を図ります。

7.社会貢献活動

7 - 1 交通安全指導

協立電機では安全衛生委員会の管理・指導の下、社員の職場・現場における災害防止・安全管理に加え、地域の安全に協力する一環として毎月、社員が、事故発生率の高い近隣の交差点や通勤歩道に立ち、交通安全指導を行っています。交通安全指導を行いながら、近隣の方と、また社員同士で交わす挨拶は、大切なコミュニケーションとなり、明るい地域づくりに貢献し、また、協立電機が地域に支えられている企業だということ、社員一人一人が再認識しています。

7 - 2 協立秋祭り

協立電機の「秋祭り」は、地域では「秋の風物詩」として知られる年中行事です。2008年の秋祭りには、ビッグイベントとしてオペラ歌手・錦織健さんの講演会を開催し、大好評でした。その他は例年通り社長を始めとして社員が飲食店を開き、焼きそばや焼き鳥、綿菓子などを、地域の方や社員の家族にふるまいました。ゲームコーナーでは、子供たちが手作りのゲームを楽しみ、明るい笑い声が響きました。バザーは、社員の家庭から様々な品物を持ち寄って行いますが、その家庭でいらなくなったものが他の人に渡り活用され、それが少しでも環境保全に役立つという思いから、毎年積極的に行っています。飲食店やバザーの収益金は全て、静岡新聞社の主催する“愛の都市訪問”キャンペーンを通じ、児童福祉施設及び特別養護施設等に寄付しており、協立電機の「秋祭り」は好評を得ています。



7 - 3 警察協力

協立電機では、地域の安全確保に貢献するため、地元警察と緊密な連携の下、地域の安全対策や交通安全運動への全面的な協力を行っています。